

千葉福祉園だより

第77号



東京都社会福祉事業団

社会福祉法人
東京都社会福祉事業団
東京都千葉福祉園
☎0438-62-2711 (代表)
URL: <http://www.chibafuku.or.jp/>

園長からのご挨拶



園長 新田 裕人

日頃より保護者の皆様をはじめ地域や関係機関の皆様には、当園の運営に関してご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症予防のため、4月に予定されていたお花見会の中止や、利用者の皆様との面会や外出の休止が続くなど、保護者の皆様をはじめ関係機関の皆様には大変ご心配をお掛けしております。一刻も早く普段通りの生活が園にも戻ってくることを祈りつつ、引き続き、園をあげて感染予防に取り組んでまいります。

今年度は、第五期指定管理期間の最終年度となります。現在、園では利用者の方々の高齢化・障害の重度化の進行が進んでいますが、利用者本位のサービスの徹底と一人ひとりに寄り添った支援の実現のために、皆様のご理解とご協力をいただきながら、日々の支援の内容の充実に努めていきます。また、職員の人材育成の強化やリスクマネジメントの徹底もあわせて進めていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

副園長からのご挨拶

副園長（第一支援部門） 吉満 貴史

昨年度に引き続き、副園長（支援第一部門）を務めさせていただきます。

日頃より、保護者・後見人の皆様を始めとして、地元の学校や関係機関、地域の皆様におかれましては、様々な面でご協力をいただき、感謝申し上げます。

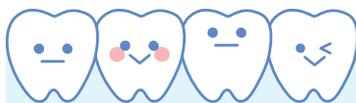
昨年度末からの新型コロナウイルス感染予防のため、様々な制約が生じておりますが、利用者の皆様の頑張りにより刺激を受けながら、我々職員も、あらためて日々の支援を見つめなおす機会と前向きに捉え、更なるサービスの向上に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

副園長（第二支援部門） 齊藤 啓

4月1日付の人事異動で副園長（支援第二部門）に着任いたしました。今までは主税局での経験が長く、障害者施設の運営は初めてになります。GLや寮職員と協力しあって、利用者の皆様が楽しく生活を送れるようにしたいと考えております。

新型コロナウイルス対策においては先が見えない状況のなか、職員の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。今後も引き続き、感染予防対策の徹底をよろしくお願い申し上げます。

今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



健康管理室医長 石山 直欣

現在、コロナのため歯科外来は急患対応をしています。

万全の感染症対策を施し徐々に診療を再開したいと考えています。

ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



新規採用・転入職員のご紹介

令和2年4月1日より新規採用となりました、榎原郁奈（ならはらふみな）と申します。

緑豊かで自然あふれる東京都千葉福祉園に来られたことを大変嬉しく思っています。

配属となった「ひまわり寮」では、子ども達が元気いっぱい、私も負けないように頑張ろうと思っています。

私も千葉福祉園の職員として、利用者本位のサービスを徹底し、利用者の皆様が安心して過ごせるような環境作りを心掛けて、支援に取り組んで参ります。

至らない点が多々あるかと思いますが、よろしくお願ひいたします。

榎原 郁奈



斉藤 啓
((副園長(支援第二部門))



菅野 愛
(健康管理室)



(左から) 前田航志 (ふじみ)・岡本悠花 (もえぎ)・榎原郁奈 (ひまわり)・加藤恵里 (あやめ)・関根 萌 (あじさい)・今井昭大 (つくし)・古屋智帆 (事業推進)・山田真徳 (事業推進)・梅原啓輔 (管理)・高橋真歩 (管理)

◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆

向夏の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、当園では、記事にもありますとおり、新型コロナウイルス感染症予防として様々な対策を講じています。

新たな生活様式に加え、フェイスシールドの活用、オゾン殺菌、こまめな手指消毒や換気といったウイルスを「持ち込まない・持ち出さない・うつさない・うつらない」ための対策を徹底して行っています。

先の見えない不安はもうしばらく続きそうではありますが、一日でも早くもとの生活を取り戻せるよう感染予防対策を継続しながら、皆様と笑顔でお会いできる日がくることを楽しみにしております。

今年度も、どうぞ当園の運営へのご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

活動支援GL 嶋貫 琢郎



新型コロナウイルス感染症予防対策 万全の準備が不安を減らす

当園では早い段階から準備を進め、「ウイルスを持ち込まない、拡げない対策」を講じてきました。手指消毒の徹底をはじめ、職員手作りのマスクやフェイスシールドの装着、靴底の消毒、万が一感染者が出た場合の必要物資や居室の確保など、様々なリスクを想定して各部門が準備に当たり、利用者の安全に繋げています。これら物資を使わずに済むことが一番ですが、油断は禁物、新しい生活様式を模索しながら、引き続き予防に努めてまいります。 支援第一部門 第一部門長 富高 典之

